◇◇◇ トピックス ◇◇◇

■ 社友会ネットワーク委員会では毎年秋に各地の被災地を訪問し、被災の状況や復興への取り組みを読者にご報告して支援や連携を呼びかけています。４年目となる今回は、2011 年の東日本大震災とそれに伴う原発事故からの厳しい復興に取り組む「福島県浪江町」を訪問しましたので、その現状をご報告いたします。

なお高い放射線量

常磐自動車道を三郷から約 170 ㎞、いわき中央ＩＣを過ぎると道路は対面通行に。車の少なくなった道路をゆっくり走ると、見えてきたのは放射線量表示と二輪車通行禁止の看板。浪江町を含むこの地域一帯は原発事故による避難指示区域で、なお高い放射線量のためその多くが帰還困難区域となっています。サービスエリアの線量計でも最高 3.9μSv(マイクロシーベルト)/ｈの値を示しており、人体への影響が懸念される水準です。

（常磐自動車道線量計）

青い秋空の下、長閑な高速道路の左右は伸び放題のセイタカアワダチソウとススキの間に人気のない家屋が点在し、時折黒いカバーに覆われた除染土が大量かつ広域に積み上げられている風景が飛び込んできて、言いようのない不安を煽ります。浪江ＩＣを降りると、浪江駅に向かう道の反対側は通行止め。駅への道に面した家々にもバリケードが施され、被災した屋根もブルーシートのまま。まさに廃墟（の街）が現れました。

（数多くみられる除染土保管所）

浪江町の現況

「浪江町」は福島県の「浜通り」にあり、太平洋岸に請戸漁港を有し山側は二本松市に隣接しています。江戸時代からの大堀相馬焼が有名で、近頃ではご当地グルメ「浪江焼そば」がその名を馳せています。また、TOKIO の人気番組「ザ!鉄腕!DASH!!」に登場する「DASH 村」もこの町内に設置されていました。

町の人口は昭和 30 年代の 28,000 人をピークに過疎化が進み、東日本大震災当時 21,434 人でしたが、全域が避難指示区域となった現在は居住者なく、2016 年 10 月時点で 20,846 人が町外に避難中です。避難先は県内 14,472 人、県外 6,374 人ですが、中には国外に避難中の方も 14 人います。

浪江町全域が避難指示区域となっていることから、幼稚園・保育園は全面休園、小・中学校は二本松市に移転、高校は県内数校にサテライトを設置後休校となりました。商業・産業施設はほとんどが休業、駅前にある町内唯一の総合病院「西病院」も職員を解雇して閉院に追い込まれ、町役場でさえ二本松市に設置された仮庁舎がなお町政の主体となっています。

（被災したままの民家と閉鎖された西病院）

また、常磐線も浪江駅を含む区間がなお不通となっており、公共交通機関は原ノ町―竜田駅間に運行されている代行バスのみとなっています。

（閉鎖されたJR浪江駅）

厳しい復興への取り組み

放射能に汚染された廃墟からの復興は容易ではありませんが、浪江町では先ずは全国に散在する避難町民とのコミュニケーションを確保しながら、全国７拠点に「浪江町復興支援員」を配置して町民の避難生活をサポートしています。

2015年9月調査による避難指示解除後の避難民の帰還意向は「すぐに・いずれ戻りたい」が17.8%、「まだ判断できない」が31.5%、「戻らない」が48.0%となっており、避難指示が解除された場合の当面の町内人口は、およそ避難民の四分の一2,500世帯5,000人と想定されています。

浪江町では帰還できる町づくりに向けて「復興ビジョン」(2012年4月)、「第一次復興計画」(2012年10月)、「復興まちづくり計画」(2014年3月)を策定し、日中の出入り可能なＡ区域(避難指示解除準備区域)・Ｂ区域(居住制限区域)について、2017年3月の避難指示解除を想定して、「除染」「インフラ復旧」「生活環境整備」「放射線対策」の４分野 16 項目の課題を設定して具体的取り組みを進めています。

2016年11月からは、Ａ区域とＢ区域について将来の帰還に向けた「特例宿泊」が始まりました。対象は町民の８割に当たる 15,440 人ですが、宿泊登録したのは126世帯307人のみでした。宅地除染や上水道はほぼ復旧したものの、医療施設は仮設診療所のみ、商業施設はガソリンスタンド３カ所・コンビニ１店・信金１店のみで、仮設商業施設をなお準備中という状況です。併せて、震災で被災したままの家屋も多く、2017年3月帰還に向けた準備が進むかどうかは見通せません。

交通インフラも常磐自動車道や国道６号線は一応開通していますが、ＪＲ常磐線の復旧は仙台方面が2017年3月、東京方面が2019年3月目途と、当面代行バスに頼ることになりそうです。

除染も居住エリアでは一応の成果を見ているようですが、広域の帰還困難区域ではまだこれからという状況で、膨大な量に達した除染土処分の問題も含めて解決に相応の期間を要すると思われます。復興までの道程は容易ではありません。

（国道6号線より見た福島第一原子力発電所）

加えて、福島第一原発の廃炉措置終了は30～40年後が目途となっているほか、燃料取り出し開始が4年後の2020年、汚染水対策も2020年内が完了目途となっており、これからも新たな放射能汚染への不安を引きずることになります。

国道６号線

（国道6号線）

帰路は国道６号線を「いわき」まで走りました。帰還困難区域にある支道はほとんどが閉鎖されています。一方、海岸線は震災時と変わらない土台だけの歯抜けのような風景が見え隠れします。防波堤修復や宅地嵩上げ工事があちらこちらで行われていました。５年半が経ちましたが、復興はまだまだとの思いで帰途につきました。